

資料2-1 希望番号取得者の新たな決定 方法の方向性について

前提

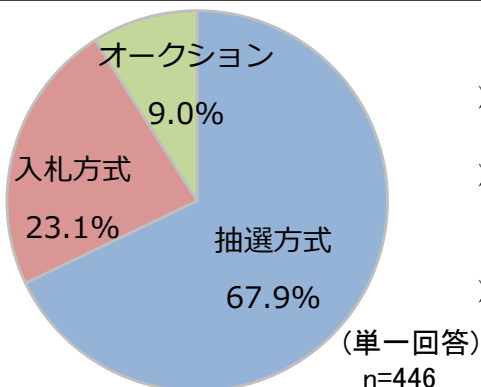
- ユーザーの希望に応じて交付枚数を制限することなく番号を交付すると特定の番号が枯渇する恐れがある
- 希望番号制度において、人気の高い番号は「無料の抽選制度」を導入しているところ、一部の番号は抽選倍率が高く、希望者がなかなか当選できない状況にある
- 諸外国においては、希望番号の取得にあたり、①有料の抽選、②入札、③オークションを採用している国・地域も存在している

目的

- 人気の著しく高い希望番号の抽選倍率を下げることにより、真に希望する方ができるだけ早く入手できるようにすること

自動車ユーザーアンケート

令和7年2月28日～3月1日実施



Q: どの方式がよいか

- 抽選方式 (当選者が定額の寄付を行う。)
- 入札方式 (一度限りの入札方式。他者の入札額を把握できない。)
- オークション方式 (競り上げによる入札方式。他者の入札額を把握できる。)

自動車ディーラーアンケート

令和7年3月13日～3月21日実施

- 入札・オークション方式は、納期が長くなる要因となり、好ましくない営業・事務スタッフも業務が複雑化し、工数の増加が見込まれる
- 入札・オークション方式は、金額が大きく吊り上がってしまう懸念があることから、寄付金額は定額が望ましい
- ユーザーとの関係では 現状どおり注文時に金額が明確であることが望ましい

課題

- これまで整理・検討してきた課題は以下のとおり。
 1. 倍率を下げるための方策（対価によらない方策）
 2. 抽選対価を求める場合の收受方法
 3. 抽選対価を求める場合の対価を求める時期
 4. 抽選対価を求める場合の抽選対象番号
 5. 抽選対価を求める場合の金額

基本的な方向性

- 現行制度において、全国14通りの抽選対象番号が存在するが、必ずしも全ての抽選倍率が高い現状ではないことから、まずは年間を通して著しく高い倍率となっている番号と地域に限定して、当選時に寄付金として一定金額を求める方策を試行的に導入し、運用上の課題や効果を検証してはどうか。
- 対価によらない倍率を下げるための方策について、短期的な取組として、個別の倍率の公表や抽選対象番号の見直しを検討してはどうか。
- 制度の見直しや大規模なシステム改修等を必要とする方策については、中長期的な課題として引き続き検討すべき課題としてはどうか。

1. 倍率を下げるための方策（対価によらない方策）

これまでの事務局提示論点

- 人気のある抽選対象番号の当選倍率を低減させるため、抽選対象番号の当選個数を増加させる方法が考えられるが、当選個数の増加は、当初予定していた番号払底時期を早めることとなるため、番号払底対策を並行して検討する必要がある。
- 人気のある抽選対象番号及びその当選倍率は、地域により異なる状況にある。抽選対象番号は地域により異なる運用としているところ、当選個数についても当選倍率に応じて設定するなど地域により異なる運用とすることが考えられる。また、倍率が1倍以下となるような番号まで抽選番号とならないよう、運用することも考えられる。

これまでの意見を踏まえた対応の方向性

- 限りある資源をどのように有効に活用するか、制度の持続性を考えるべきではないか。
- 当選個数を増加させることにより倍率を下げることについては、例えば当選倍率が30倍の番号について当選個数を増やす方法で倍率を1倍に下げようとする約1年で枯渇することになるため、持続可能ではないのではないか。
- 当選個数を倍にして当選倍率を半減したところで効果は限定的であることから、当選までに必要となる平均的な抽選参加回数を公表することにより、倍率低下が見込まれるのではないか。
- 番号の再利用についても今後検討していく必要があるのではないか。

2. 抽選対価を求める場合の收受方法

これまでの事務局提示論点

- 現行制度において收受している交付手数料又は寄付金が候補に考えられるのではないか。
- 仮に交付手数料とする場合、交付手数料は実費を勘案して設定するものであることから抽選の対価として上乗せの価格を設けることは困難ではないか。また、抽選に落選し、ナンバープレートの交付を受けない者から交付手数料を收受することはできないのではないか。
- 仮に寄付金とする場合、ユーザーが抽選に参加する対価として寄付金を支払うことに寄付制度上の問題がないか確認した上で、寄付の收受主体、寄付金額、寄付金の用途について今後検討すべき。
- 仮に寄付金など交付手数料以外とする場合、新たなシステムを構築する必要がある。

これまでの意見を踏まえた対応の方向性

- 現行制度において自動車ユーザーから收受している交付手数料は実費を勘案して設定するものであることから抽選対価には馴染まないのではないか。
- 寄付金により寄与の度合いを勘案して図柄ナンバープレートを交付している事例を参考に、まずは寄付金によることを基本としてはどうか。
- 寄付金制度上に問題がないか確認した上で、寄付の收受主体を図柄ナンバープレートの取り扱いを参考に決定してはどうか。

3. 抽選対価を求める場合の対価を求める時期

これまでの事務局提示論点

- 抽選時又は当選時が候補に考えられるのではないか。
- 仮に当選時とする場合、抽選時とする場合と比較して抽選倍率が下がる可能性が低い¹が、当選者した者が支払うことになるため、現行の制度に準じた対応ができるのではないか。
- 仮に抽選時とする場合、当選時とする場合と比較して抽選倍率が下がる可能性が高い²が、当選者した者以外も支払うことになるため、現行の制度に準じた対応が困難ではないか。
- 仮に抽選時など当選時以外とする場合、新たなシステムを構築する必要がある。

これまでの意見を踏まえた対応の方向性

- 現行制度において当選時において交付手数料及び図柄ナンバープレートの寄付金を求めており、関係システムの改修に係る負担を考慮して当選時を基本としてはどうか。
- 抽選時に対価を求める場合と比較して抽選倍率が下がらない可能性があることから、制度開始後の状況を踏まえて別の手法を改めて検討することとしてはどうか。

4. 抽選対価を求める場合の抽選対象番号について

これまでの事務局提示論点

- 人気のある抽選対象番号及びその当選倍率は、地域により異なる状況にあり、現行制度において抽選対象番号は地域により異なる運用としていることから、全国一律ではなく地域別に対象番号を定めてはどうか。
- 倍率が1倍以下となるような番号まで抽選番号とならないよう現行制度の運用を見直ししてはどうか。また、抽選対象希望番号の具体的な抽選倍率を逐次情報提供することや当選までに必要となる平均的な抽選参加回数を公表してはどうか。これらにより行動変容を促すことができるのではないかと。

これまでの意見を踏まえた対応の方向性

- 人気のある抽選対象番号及びその当選倍率は地域により異なること、抽選倍率を下げることにより真に希望する方ができるだけ早く入手できるようにする観点から、全国一律ではなく対象地域と対象番号を限定してはどうか。
- 制度開始に先立っては、倍率が1倍以下となるような番号まで抽選対象番号とならないよう現行制度の運用見直しを検討するとともに、抽選対象番号の具体的な抽選倍率を逐次情報提供することや当選までに必要となる平均的な抽選参加回数を公表して行動変容を促すことを検討してはどうか。

5. 抽選対価を求める場合の金額について

これまでの事務局提示論点

- 倍率に応じて金額を変化する方法ならば、抽選倍率の低いナンバーを選んで申し込むインセンティブになるが、金額を定額にしてほしいとするディーラーに配慮する必要があるのではないか。
- 令和7年に実施したユーザーアンケートにおける抽選方式について、当選者が定額の寄付を行うことを前提としていたため、仮に抽選参加料として当選者以外から収受する場合は、改めてアンケートなどを踏まえた適切な金額を検討すべきではないか。

これまでの意見を踏まえた対応の方向性

- 抽選倍率を下げるにより真に希望する方ができるだけ早く入手できるようにする観点から、対価を求める時期を当選時として制度を開始する場合は、金額を定額にしてほしいとするディーラーの声に配慮するとともに、令和7年に実施したユーザーアンケートにおいて半数以上の者が抽選不参加となる3,000円以上を目安に寄付金額を設定することが考えられるのではないか。
- 試行的な制度導入後、倍率の低減度合などを検証し、対価を求める時期を検討してはどうか。なお、時期を抽選時とする場合は、改めてアンケートなどを踏まえた適切な金額を検討する必要があることに留意。

抽選倍率を下げる手法へのご意見

- 限りある資源をどのように有効に活用するか、制度の持続性を考えるべきであり、当選個数をどの程度増やすことができるかを考えたときに、例えば当選倍率が30倍の番号について当選個数を増やす方法で倍率を1倍に下げようとする約1年で枯渇することになるため、現実的ではないのではないか。
- 当選個数を倍にして当選倍率を半減したところで効果は限定的ではないか。
- 特定の人気の高い番号の払底時期が早まっていることを理由に当選個数を制限している状況を踏まえると当選個数を増加させることは現実的ではないのではないか。
- 当選個数を増加させると、番号払底時期が早まるとともに、なかなか当たらないので価値があるといった考えもあるため、無理して当選個数を増加させる必要はないのではないか。
- 当選個数増加による倍率低下の効果は限定的であることから、抽選参加料等を設けることを基本としてはどうか。
- 抽選対象番号の当選後に手数料を支払う仕組みだと倍率が下がらないため、抽選時に参加料を設ける手法が良いのではないか。
- 抽選参加料を寄付金とする場合、寄付の対価の議論が必要ではないか。
- 仮に抽選参加料を希望ナンバーシステムで収受する場合、事前に代金を収受する仕組みがないため、大規模なシステム改修が必要であることから中長期的な対応が必要ではないか。
- 当選までに必要となる平均的な抽選参加回数を公表することにより、倍率低下が見込まれるのではないか。
- 番号の再利用については、MOTASの大規模改修や他の社会経済システムにも影響を与えることから慎重な検討を要するのではないか。

- 抽選対象希望番号について、1,7,8,88,333,358,555,777,888,1111,3333,5555,7777,8888の14通りを全国共通で設定しており、最大で神戸の39通りまで地域により異なる。(自家用の普通乗用自動車の例、以下同じ。)
- 最高倍率については地域により1.25倍から30.86倍まで差が生じているが、最低倍率については0倍から0.41倍とほとんど差がなく、1倍を下回る番号も存在している。

令和7年3月～4月の2ヶ月間の自家用の普通乗用自動車(3ナンバー)の抽選実績

地域名 (一例)	抽選対象番号の数	全ての抽選対象番号の期間平均倍率	最高倍率(期間平均)とその番号		最低倍率(期間平均)とその番号		倍率(期間平均)が1を下回る抽選対象番号の数
札幌	16	2.57倍	11.19倍	1	0.35倍	5555	7
宮城	13	0.81倍	2.56倍	1	0.25倍	3333,5555,7777	10
新潟	13	0.56倍	1.25倍	8	0.25倍	5555	12
横浜	36	2.99倍	16.86倍	1	0.39倍	5555	11
名古屋	36	4.86倍	24.28倍	1	0.41倍	7788	10
神戸	39	3.56倍	30.86倍	1	0.36倍	3333	10
広島	13	1.28倍	5.61倍	8	0.25倍	777	10
愛媛	13	0.80倍	1.78倍	8	0倍	777	10
福岡	16	2.22倍	10.22倍	1	0.29倍	3333	8
沖縄	13	0.84倍	1.75倍	8	0.25倍	5555	9
平均	20.8	1.64倍	10.64倍	-	0.28倍	-	-

注: 令和7年3月～4月時点の全国共通抽選対象番号は上記14通りから358を除いた13通り

○ 抽選番号の倍率の緩和を目的に、抽選番号について、その当選者が一定額以上の寄付金を納めなければならない寄付金制度を導入することに反対でないと回答した者に対して、納めてもよい寄付金額※のアンケートを行った結果は以下のとおり。

※ナンバープレートの交付手数料以外に収める寄付金額

当選時に納めてもよい寄付金額

- ・1,001円以上 約62%
- ・3,001円以上 約29%
- ・5,001円以上 約11%

抽選番号の倍率の低減度合い (寄付金設定額毎)

- ・1,000円以上 ▲約38%
- ・3,000円以上 ▲約71%
- ・5,000円以上 ▲約89%

